

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所

事業所名（施設名）：阿南町立大下条保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	■	1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	○町の教育委員会作成の「阿南町の教育が目指す考え方と方向性」と「教育基本方針（大綱）」があり、基本理念、基本方針、基本目標が連動している。さらに、“幼児教育の重点”があり、その中には重点的な施策3項目と保育目標が具体的な内容で明示されている。 ○保育課程は、これらを受けて、町内3保育所合同で、保育課程・保育理念・保育目標を作成している。保育所の役割、子どもや家庭の状況、各地域の様子などを明らかにして、年齢別の保育目標を編成している。 ○保育課程等の見直しは、年度末に3園合同の主任会や年齢別担当保育士の会議において評価・見直しを実施して編成している。
					■	2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■	3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
					■	4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。	
					■	5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	
	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	■	6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	○広い園庭と明るく広い園舎で、子どもたちがのびのびと過ごせる環境となっている。内装は木材を使用しており、柱も木材で囲むなど工夫がされている。また、各保育室前のデッキが広く雨が降っても濡れないようにできている。保育室には室温計があり、湿度・温度を管理、天井扇も設置されており、室内環境を適切な状態に保つように配慮している。	
				■	7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。		
				■	8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	①		<p>■ 9 内装等には、木材を利用している。</p> <p>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</p> <p>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</p> <p>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</p>	<p>○ 安全管理マニュアルがあり、遊具について毎週点検表に沿って点検を実施して、安全・衛生管理に努めている。寝具については、園で汚した場合は園で処理し、未満児は毎週、3歳以上は隔週にお昼寝用寝具を家庭に持ち帰り、衛生的に保つようになっている。</p> <p>○ 絵本を読むスペースがあり、自由にそこで絵本を選び、読んだり見たりして過ごすことができるようになっている。園庭には、小さなログハウスがあり、子どもたちの好きな場所となっている。</p> <p>○ トイレは、年齢別にできており、3歳以上が使用するトイレも子どもに合わせて、安心して使用できるように工夫されている。また、手洗い場は子どもの身長に合うよう高さを変えて設置している。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<p>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</p> <p>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</p> <p>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</p> <p>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</p> <p>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</p> <p>■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<p>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</p> <p>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</p> <p>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</p> <p>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</p> <p>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</p>	<p>○年齢別年間指導計画に、基本的な生活習慣を身につけることを年齢に合わせてねらいや目標に掲げて取り組んでいる。2歳児では、教育の健康の項で手洗い・手拭きを自分でする、食後に歯磨きをする、戸外から帰ったらうがいをするなど、段階的に目標を立て援助している。歯磨きは、年少は自分で磨いた後に保育士が確認して仕上げ磨きを行い、年中・年長は砂時計を使って時間を図りながら自分で磨くなど、年齢に応じて自分で取り組めるよう保育にあっている。</p> <p>○一日の生活は、登園、遊び、お茶タイム（未満児はおやつ）クラス活動、昼食、お昼寝など、休息と活動の時間のバランスが保てるように工夫している。また、未満児で朝早くに登園する子どもについては、その子の状況に合わせた日課にする、様子を見て疲れ気味の子どもには、部屋で遊ぶよう声をかけるなど配慮している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<p>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</p> <p>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</p> <p>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</p> <p>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</p> <p>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</p> <p>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</p> <p>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</p> <p>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</p> <p>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</p> <p>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</p>	<p>○登園後や昼食後などは、子どもたちが自由に活動できるように、年齢にあった玩具や遊具、絵本を子どもの手が届くところに使いやすく置いている。昼食後、片付けと歯磨きが終わった子どもは、友だちを誘うなどして、ブロック等で遊んでいる様子が見られた。登園後やクラスの活動の時間などでは、遊具や園庭で駆け回るなど、戸外で遊ぶことができる時間や環境が確保されている。</p> <p>○年間の生活の流れを図や絵などで、年度初めに子どもたちに伝えており、前日にも明日は何をするのか伝えることで、次に何をやるのか理解して動くことができ、安心して活動に参加している。</p> <p>○園庭は広く、草花・木々に囲まれており、桜の実を使って絵を描く、マリーゴールドで色遊び、葉っぱを使った遊びなど自然とふれあう活動を工夫して取り組んでいる。保護者に“どろんこパンツ”を用意してもらい、ダイナミックに砂・泥遊びができるように配慮している。また、昆虫もあり、捕まえたり観察したりと楽しんでいる。</p> <p>○指導計画の教育の項で年齢ごとの目標があり、生活や表現活動、遊び等を通して保育者や友だちとの関係を育むことができるように援助している。また、公園や図書館、消防署など歩いて行けるところがあり、散歩を兼ねて出かけており、高齢者施設との交流会も実施するなど、地域の人と接する機会や、社会体験が得られる機会がある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(2)	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 34	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	○年齢別保育室が確保されており、ゼロ歳児についても、保育室、食事場所、トイレなどが別で、安心して落ち着いて生活ができるような配慮がされている。指導計画に基づいて発達過程に応じた個別の指導計画を作成し、月齢や子どもにあった生活リズムを整え、応答的な触れ合いや言葉かけを行っている。 ○家庭とは、連絡帳に就寝・排泄・食事等相互に記入して情報交換を行い、送迎時に話をするなど、家庭との連携を密にしている。
				■ 35	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。		
				■ 36	子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。		
				■ 37	0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。		
				■ 38	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。		
				■ 39	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。		
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 40	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	○個別指導計画を作成し、一人ひとりの子どもの状況に応じて保育を行っている。未満児で、手を繋いで近くに散歩に出かける、園庭を探索するなどの活動を行っている。また、未満児用の園庭・未満児用のプールがあり、安心して遊べる環境が整っており、保育に活かしている。 ○高齢者との交流会や散歩の途中などで、保育士以外の大人と関わる機会がある。園の中では、全体活動などで、年齢の大きい子どもとのふれあいを図っている。 ○1歳児までは、0歳児と同様の連絡ノートを活用している。2歳以上は、特別なことや園で見られた変化などを記入して家庭に知らせている。さらに、送迎時に話をして、連携に努めている。
				■ 41	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。		
				■ 42	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。		
				■ 43	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。		
				■ 44	保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。		
				■ 45	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。		
				■ 46	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○3歳児の年間指導計画のⅡ期（7～9月）のねらいは“友だちと関わって遊ぶことの楽しさを味わう”で、情緒の項で個々の欲求を受け止めながら、友だちと上手に関われるよう配慮することを挙げている。現在、友だちとの関わりが持てるよう、運動会の練習の他、ままごと遊びを取り入れ楽しんでいる。</p> <p>○4歳児は、Ⅱ期では“子ども同士の遊びを豊かにし、友だちとの関係の中で徐々に自分を発揮できるようにする”を目標に挙げて、保育に取り組んでいる。運動会で言うかけこの真似を、自由時間にみんなと一緒に自分たちだけでやれるようになってきており、調査日の昼食後も友だちと一緒に何人かで楽しく遊ぶ様子がみられた。</p> <p>○5歳児は、Ⅱ期では“人間関係において、遊びを通し意見や感情の行き違いなどを経験し、相手の気持ち、考えをわかろうとする”を目標にして、日々の活動や運動会の準備に取り組んでいる。年長として、積極的に自分のやりたいことを見つけ、友だちを誘ってリレーの練習をやるなど、友だちと協力してやることのできるようになってきている。</p> <p>○運動会には、小学1年生や地域の人、小学校の先生を招待して、見てもらっている。近くの高齢者施設を訪問して、歌など日頃の活動を披露する機会を作っている。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</p> <p>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</p> <p>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</p> <p>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</p> <p>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</p>	<p>○園舎は段差がなくバリアフリーで、障害に応じた対応ができる環境がある。</p> <p>○障害のある子どもの状況に応じて、個別の指導計画を作成している。障害のある子どものクラスには、保育士1名が加配されており、クラス全体の指導計画と関連させながら、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</p> <p>○検診時に保健師からアドバイスをもらったり、子どもが通っている郡内の福祉施設療育センターを訪問し、グループ活動の様子を見学して担当から話を聴いたりして必要な知識や情報を得て、保育に活かしている。また、三保育所合同の保育士研修会で、障害について学び、対応について共有化している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント			
A	1	(2)	⑧		■ 57	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。			
					■ 58	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。			
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。		○長時間保育は、一部屋に全員集まり異年齢で過ごしている。その日の生活を踏まえ、ゆったりと過ごせるように配慮して保育にあたっている。17時には飲み物とおせんべいやチーズ、クッキーなど軽いおやつを提供しながら体を休める時間を取っている。 ○長時間専門保育士と当番保育士が保育にあたっており、子どもの状況については引継ぎが適切に行われている。保護者とは、お迎え時に話をして様子等伝え、必要な連携を取っている。時には電話も活用している。	
					■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。			
					■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。			
					■ 62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。			
					■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。			
					■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。			
					■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。			
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	■ 66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。			○年間計画に小学校との交流や懇談会などを位置づけ、連携を進めている。5月には保育士が小学校に出向き、授業参観、卒園児との懇談、教員との連絡会を実施し、保育内容に活かしている。また、小学校の教員が年長児クラスの参観を行い、子どもたちの状況について意見交換を実施するなど就学に向けた連携を図っている。
					■ 67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。			
					■ 68	保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。			
					■ 69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。			
					■ 70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント		
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	■ 71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	○入所時に、入所前の家庭における発育状況や予防接種、既往症等を記入した書類を提出してもらい、個別記録に記載している。子どもの体調の変化、けがなどについては、緊急を要する場合は緊急連絡先に電話をして知らせている。 ○インフルエンザや手・足口病など感染症の流行状況や予防対策、園での対応など、園だよりで知らせ、家庭でも注意するよう協力を呼び掛けている。 ○乳幼児突然死症候群については、県からの情報を職員間で回覧して職員に周知している。保護者には、子どもの状況を聞き取る時に、話をしている。 ○さらに、子どもの健康管理に関するマニュアルの充実を図られることを期待したい。	
				■ 72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。			
				■ 73	子どもの保健に関する計画を作成している。			
				■ 74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。			
				■ 75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。			
				■ 76	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。			
				■ 77	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。			
				■ 78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。			
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	■ 79	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。		○健康に関する年間計画では、内科検診と歯科検診が年2回、蟻虫検査が年1回予定されている。歯科検診については、町の歯科保健事業で歯科衛生士と委託契約を結んでおり、保育所で歯磨き教室や指導が実施されている。また、3歳以上の子どもについては、公費でフッ素塗布を受けている。保育所では、子どもたちの意識が高まるように、昼食後に3分間歯磨きを励行して虫歯予防に努めている。 ○健康診断や歯科検診等の結果は、担当医師が記入した診察結果用紙を保護者に渡している。また、保育所で実施している発育測定についても結果を報告している。
			■ 80	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。				
■ 81	家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。							

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<p>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	○飯田下伊那保育園・幼稚園給食アレルギー対応指示書が作成されており、卵・牛乳・大豆など、食品別の対応方法等が明記されており、指示書を基に、子どもの状況に合わせて対応している。 ○アレルギー疾患や慢性疾患等について保護者から聞き取りを行っている。該当の子どもについて、主治医から指示書が出されており、症状・対応方法など具体的に記載されている。エビペンの使用方法について講習を行っている。また、献立日誌を保護者が月毎チェックする体制をとるなど、連携して対応している。
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</p>	○保育課程に「食育・食を営む力の基礎」の項があり、各年齢別指導計画書の食育の項で年齢に合わせた具体的な課題をあげ、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。また、年間給食計画が、年齢別に4期に分けられ作成されている。配慮項目では、食前・食後の挨拶、はしの使い方、清潔、水分補給、食事マナーなどがあげられ、保育に活かされている。 ○畑やプランターで野菜を作っており、月別指導計画では、例えば3歳児は“水やりの観察、生長に気づき、大きくなることを楽しみにして、収穫を喜ぶ”4歳児は、“水やりや生長の様子を観察、野菜の色やにおい、手触りの違いに気づく、自分たちで作った野菜を食べる喜びを感じる”5歳児は“友だちと一緒に収穫した野菜をおいしく食べる、自分たちで育てた野菜を話題にすることで、体と食べ物に関係に興味関心を持って食事する”など年齢に応じた食育計画を立てて取り組んでいる。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	①		<p>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>○個人差や食欲を把握し、一人ひとりに合わせた量を加減し、おかわりなどは声をかけ、食べられるものが少しでも多くなるように工夫して援助している。</p> <p>○給食だよりには、献立のほか、給食のカロリーや季節の食べ物・料理等の紹介、食に関することなどを掲載し、家庭と連携がとれるように工夫している。</p> <p>○未満児が、落ち着いて食事をとれるように、0・1・2歳児と分かれて年齢別に食事をとるようにしている。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<p>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</p> <p>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</p> <p>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</p> <p>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</p> <p>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</p> <p>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</p> <p>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</p> <p>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p>	<p>○献立は栄養士が、3園共通の献立を作成し、各保育所で担当の調理員が調理をしている。保護者からも好き嫌いや食事量について確認して対応している。19日の食育の日には各園順番に希望献立を出してもらいメニューに入れている。</p> <p>○食材は、できる限り地域の農竹産物を利用するように努めている。献立は季節に合わせた内容で、ひな祭り・子どもの日・七夕など行事食、地元の食文化である五平餅などを取り入れて立てられている。8月は、地域の農家が作っているとうもろこしのおやつ、地域の伝統野菜の鈴が沢うりを使った中華和えなどが提供されている。献立表には、家庭向けに子どもから人気のメニューのレシピや月々の献立のポイントを載せている。</p> <p>○調理員は、交替で各クラスに入って一緒に給食を食べる機会があり、子どもたちも給食を作ってくれる〇〇さんとわかっており、希望や感想を伝えることもある。祖父母参観日には、保護者や祖父母が子どもたちと一緒に給食を食べる機会がある。また、保護者を対象に栄養士から保育所の給食について話をしている。</p> <p>○衛生管理を徹底するだけでなく、年6回食材の放射能検査を実施して、安全な食事の徹底に努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	○4月の家庭訪問、年4回の保育参観、保護者会総会や年2回の作業等があり、保育の意図や保育内容等を伝え理解を得る機会がある。また、園だよりやクラスだよりで、園全体やクラスの子どもの成長がわかるように、日々の様子や活動について知らせている。 ○連絡ノートを用意して年齢に応じて活用しており、その日の子どもの様子を伝え、保護者からは、家庭での様子や感想、意見、要望等の記載がある。特に必要と思われることは、個別台帳等に記載している。できるだけ送迎時に声を掛け情報交換ができるように努めている。	
				■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。			
				■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。			
				■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。			
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。		○入所申し込みの際には、家族状況票の提出があり、家族関係、保護者の就労状況など家族状況を把握した上で4月に家庭訪問を実施しており、保護者の意見や心配事などを聞き取っている。日々の送迎時の会話や様子で気になることがあれば、職員間で情報を共有して対応を検討するようにしている。 ○参観日等で機会を作り、子育てについて話をするなど、保護者への支援を心掛けている。相談等については、個別台帳や連絡ノートに記載している。さらに、相談内容等の記録方法を検討されることが望まれる。
				■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。			
				■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。			
				■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。			
				■ 112 相談内容を適切に記録している。			
				■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>○町の組織として、家庭における虐待等権利侵害については、子ども教育係で取り組んでいる。保育所内では、日頃の保育の中で子どもの心身の状態に気を配っている。発育測定の際には、子どもの身体の状態を観察するなど注意を払っている。</p> <p>○現在、虐待等権利侵害の可能性はある例はないが、何かあれば保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制はある。 ○今後、虐待等権利侵害の予防対策、発見した場合の対応マニュアル等を整備し、職員研修等実施して、虐待等権利侵害に関する理解を促す取り組みが望まれる。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>○保育課程に基づいて年齢別の指導計画を4期に分けて作成して期毎の自己評価を行っている。さらに、月別の指導計画書、週のねらいを項目別に定めて週の日案日誌を記録し、週の反省と次の取り組みとして自己評価を記入している。</p> <p>○保育所内の職員会議、3保育所合同の年齢別会議やケース検討の場があり、子どもの状況にあった援助方法、保育内容などについて話し合っている。保育内容の振り返りや改善点など出し合い、保育の質の向上を目指している。</p> <p>○年間、4期毎、毎月、毎週と定期的に自己評価を実施して次につなげている。さらに、自己評価の内容を課題や目標に沿った内容に整理するなど検討し、より充実した自己評価になるように期待したい。</p>